

- 問1 下水処理場でしっかりときれいにした水は、どのような場所に利用されることがありますか。
- 問2 清掃工場で、ごみを燃やしたときに出る熱は、どのように利用されていますか。
- 問3 ごみを捨てるときに、スチール缶やペットボトルなどを種類ごとに分けて出す「分別（ぶんべつ）」をするのはなぜですか。
- 問4 ごみを減らして地球の環境を守るための取り組みとして、リデュース・リユース・リサイクルに、「いらないものを断る」という意味の「リフューズ」を加えた4つの考え方を何と呼びますか。
- 問5 使わなくなった服を、ごみとして捨てるのではなく、必要としている人に譲るような、形を変えずに繰り返し使う取り組みのことを何と言いますか。
- 問6 家や学校で使ったあとのよごれた水は、どこへ運ばれてきれいにする処理がおこなわれますか。
- 問7 新聞や雑誌などの紙類を正しく分別して出すと、何に生まれ変わることが多いでしょうか。
- 問8 川から取り入れたばかりの水は、そのままでは飲めません。安全に飲めるようにするために、水をきれいに処理する施設のことを何と言いますか。
- 問9 ごみとして捨てるときに、商品や容器包装についている「リサイクルマーク」を確認することには、どのような理由がありますか。
- 問10 水の流れを利用して電気を作る方法を何と言いますか。
- 問11 工場で機械を冷やすために使った水を、繰り返し使う取り組みには、どのような目的がありますか。
- 問12 リユースを進めることで、どのような良い効果がありますか。
- 問13 発電所でつくられた電気を、家庭や工場に届けるために電圧（電気の勢い）を下げる役割をしている場所はどこでしょう。
- 問14 清掃工場でごみを燃やしたあとに残る「灰」は、最終的にどうなりますか。
- 問15 しゅう集車が家庭から集めたごみを、最終的に清掃工場へ運ぶのはなぜですか。
- 問16 エネルギー源を燃やして、その熱で電気を作り出す方法を何と言いますか。
- 問17 原子力発電で、電気を作るための燃料として使われるものは何ですか。
- 問18 使い終わったものを、一度分解したり溶かしたりして「原料」に戻してから、新しい製品に作りかえることを何と言いますか。
- 問19 浄水場では、水の中の小さな汚れを取りのぞくために、砂などの層を通してきれいにする「ろ過」という作業を行います。では、きれいになった水を各家庭に届ける直前に一時的にためておく場所を何と言いますか。
- 問20 清掃工場でごみを燃やすとき、空気中に有害な物質が広がらないようにするために、どのような工夫をしていますか。

## 答え合わせ・解説 No.5

問1	<b>答え</b> 競技場などの施設で使う水	下水処理場で浄化された水は、トイレの洗浄水や、競技場などの施設で使う水として活用されることがあります。ただし、一度使った水をきれいにしている、私たちが普段飲んでいる水道水とは別の目的で使われます。
問2	<b>答え</b> 電気を作ったり、温水プールを温めたりする	清掃工場でごみを燃やすときに出る熱（余熱）は、発電をして工場や地域の電気として使われたり、温水プールや近くの施設にお湯を送って温めたりするのに利用されています。
問3	<b>答え</b> ごみを資源として再利用し、捨てるごみを減らせるから	資源となるごみを正しく分別すると、それらを再び新しい製品の材料（資源）にすることができます。これにより、ごみとして燃やされたり埋め立てられたりする量を減らすことができるため、環境を守るための重要な活動となります。
問4	<b>答え</b> 4R（フォーアール）	環境を守るために資源を大切に取る取り組みとして、ごみを減らすための3つの言葉（リデュース、リユース、リサイクル）に、いらぬものをもらわない・断るという意味の「リフューズ」を加えたものを4R（フォーアール）と呼びます。
問5	<b>答え</b> リユース	一度使ったものを形を変えずに何度も繰り返し使うことを「リユース（再使用）」と言います。似た言葉に、一度ごみとして細かくして、別の製品の材料に変える「リサイクル（再生利用）」がありますが、形を変えずにそのまま使う点がリユースの特徴です。
問6	<b>答え</b> 下水処理場	私たちが使った水は、地下にある下水道管を通して「下水処理場」へ集められます。そこで水をきれいに処理してから、川や海へ放流することで、地域の水環境を守っています。浄水場は、逆に川の水をきれいにして飲み水を作る場所なので、混同しないようにしましょう。
問7	<b>答え</b> トイレットペーパー	新聞や雑誌などの古紙は、回収された後に工場で溶かされ、再び紙製品としてリサイクルされます。その代表的な例が、私たちが毎日使うトイレットペーパーです。このように資源を循環させることは、ごみを減らすためにとても大切なことです。
問8	<b>答え</b> 浄水場	浄水場は、川から取った水にまざっている泥や汚れを取りのぞき、消毒をして家庭へ送るための大切な施設です。私たちが毎日安心して水を使えるのは、この施設があるおかげです。
問9	<b>答え</b> ごみを正しく分別するため	リサイクルマークは、その製品が何からできているかを示しています。マークを確認して素材ごとに正しく分けることで、ごみを資源として再利用（リサイクル）しやすくなります。
問10	<b>答え</b> 水力発電	高いところから低いところへ流れる水の力を使って、大きな機械（タービン）を回して電気を作る仕組みです。自然のエネルギーを利用した発電方法のひとつです。
問11	<b>答え</b> 新しく使う水の量を減らすため	工場などで水を循環させて繰り返し使うのは、限りある水資源を大切に、外から新しく引いてくる水の量を減らすためです。水は大切な資源なので、できるだけ無駄にしない工夫がされています。
問12	<b>答え</b> ごみの量を減らし、資源を無駄にしない	物を大切に繰り返し使うことで、本来ごみになるはずだったものを減らすことができます。これにより、新しい物を作るために使う資源の消費を抑え、限りある資源を効率よく使うことにつながります。
問13	<b>答え</b> 変電所	発電所では電気をつくりませんが、つくられた電気はそのままでは強すぎるため、変電所という場所で私たちが使いやすい電圧に下げた後、家庭や工場へ送られています。
問14	<b>答え</b> 最終処分場（埋め立て地）に運ばれる	ごみを燃やすと、燃え残った灰が発生します。この灰の一部はセメントの材料などにリサイクルされますが、リサイクルできない残りの多くは「最終処分場」と呼ばれる埋め立て地に運ばれて埋められます。
問15	<b>答え</b> ごみを適切に処理するため	私たちが日常生活で出すごみは、そのままにしておくと町が汚れてしまいます。しゅう集車で清掃工場へ集めることで、ごみを燃やしたりリサイクルしたりと、適切に処理して町を衛生的に保つことができるからです。
問16	<b>答え</b> 火力発電	石炭や石油などの燃料を燃やすことで出る熱を利用して電気を作る方法を火力発電といいます。水力発電は水の流れを、太陽光発電は太陽の光を、風力発電は風の力をそれぞれエネルギー源として利用しています。
問17	<b>答え</b> ウラン	原子力発電は、ウランという物質が核分裂するときに出る熱エネルギーを利用して電気を作ります。石炭、石油、天然ガスは火力発電の燃料です。
問18	<b>答え</b> リサイクル	一度バラバラにして原料の状態に戻すことがポイントです。そのままの形で繰り返し使う「リユース」と間違えないようにしましょう。
問19	<b>答え</b> 配水池	浄水場でしっかりとよごれを落としてきれいになった水は、配水池という場所にためられます。そこから、たくさんの水道管を通して、みんなの家の蛇口まで水が運ばれていきます。
問20	<b>答え</b> はいガス処理装置で有害な物質を取り除いてい	ごみを燃やすと煙やガスが発生しますが、そのまま外に出すと環境によくありません。そのため、清掃工場には「はいガス処理装置」があり、有害な物質をしっかりと取り除いてか

